第３期群馬県教育振興基本計画策定懇談会

【可能性をはぐくむ環境づくり部会】　意見概要

資料１関連

|  |  |
| --- | --- |
| 発言箇所 | 意見要旨 |
| 柱４ | 第２期計画では「学習意欲を高める」としていたのが、「学びに向かう力を育む」という表現に変わったのはなぜか。  （義務教育課）  Ｈ29.3月に学習指導要領が改訂され、「学びに向かう力」というのが３つの資質・能力の１つとして位置づけられたため。 |
| 取組27、取組36 | どちらも学校・家庭・地域の連携ということで似ているが、取組を分ける必要があるのか。  （総務課、教育長）  取組27は、学校づくりの観点から家庭や地域との連携を図り、地域に認められる、信頼される学校を目指すもの。ただ、今回、施策の７と８に分けて体系を変えさせていただいたように、子どもたちの問題の中には学校だけで解決できないことも増えてきている。学校がプラットフォームになって、地域・家庭・専門家等の力を結集して子どもたちを育てていくということが大きな課題である。第３期の計画ではその部分を今までよりも大きな視点で考えていきたいと考えている。  （部会長）  取組27は学校づくりということで、学校が主体なのが分かるが、取組36の方は地域が主体ということが分かるようにした方が良い。 |

資料２関連

|  |  |
| --- | --- |
| 発言箇所 | 意見要旨 |
| 取組１  （P.２）  取組１  （P.２） | キャリア教育という内容に合うかどうか分からないが、自分の経験から話をさせてもらう。  自分の農園で、職場体験を受け入れているが、中学生と高校生、同じ中学生でも違う学校の子、等を交わらせると相乗効果で育つと感じる。学年が異なると、下の子は上の子を見て育つし、上の子は下の子の面倒を見るようになる。障害のある子がいれば、誰かが見守るようになる。こういった交流もキャリア教育になるのではないか。 |
| 伊勢崎市の取組を紹介させていただく。伊勢崎市では、「いせさき教育アンバサダー」という取組をしており、今年度は１６人に委嘱した。本市にゆかりのある、様々な分野で活躍されている方々である。市内の小・中学校で講演や特別授業をしていただき、子どもたちに夢や希望を与えていただいている。 |
| 柱２  （P.4） | 学力の育成とも関連するが、今までは、探究的な学びが理数系の学習を通して行われることが多く、文系の子は興味が持てなかった。文系の子にも、文系的な手法での探究的な学びをさせてあげられると良い。たとえば、地域の課題解決について研究させるなど。ひいては、地域との連携やキャリア教育にもつながっていく。 |
| 取組６  （P.7） | ４つめの○で、県内高校生の留学や海外研修を促進すると記述があるが、子どもたちのためには大事な取組である。ただ、こういった取組を支援する補助金について、広く薄く交付するのではなくて、人数を絞って全額負担してあげるのがいいと思う。 |
| 柱3の指標  （P.7） | 日本人の英語力はアジアの中でもかなり低い。なかなか成果が上がらないことについて、何故なのかを振り返る必要がある。指標においても、他の国がどのレベルに位置しているのかを記載した方が良い。また、ポルトガル語など英語以外の言語になじむ取組があっても良いと思う。 |
| 柱５  （P.12） | 現場にいると、あまりＡＩやＩＣＴに触れることがないため実感がないが、もしかすると中学校の方が進んでいて、高校に入ると逆戻りするようなところがあるかもしれない。  （部会長）  ＡＩやＩＣＴを扱う上では、やはり理数系の力をつけることも必要か。  （委員）  おそらく、これからの時代は文系・理系という括りをやめた方がいいと感じている。どうしても、大学受験の受験科目があるから文系・理系で分かれてしまっているが。  （委員）  英語もそうだが、プログラミングやＩＴは世界の共通言語である。文系・理系を問わずに、力をつけていく必要がある。 |
| 取組19  （P.23） | スポーツは、「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」の２つに分けることができる。スポーツをやる人の大半は「生涯スポーツ」だが、学校という場では「競技スポーツ」が多い。大会で勝ちたい、勝たせたい、という思いがあるが、行きすぎた指導とならないように体罰防止等に取り組んで行く必要がある。特に、外部指導者は「自分が来たからには勝たせたい」という思いが強い。指導者の研修等を通して、指導力を向上させること。 |
| 取組27  （P.34） | これから少子化が進み、高校の学級減、統廃合が進められていく。地域の中で生きる公立高校なので、もっと地域の中に入っていくような取組が必要だと思う。 |
| 取組29  （P.34） | 私学はそれぞれ特色を持っているが、公立も昔とは違って学校毎に特色を持っている。群馬県は公私の差がないように取り組んでいただき感謝している。国では高校無償化が進められているが、私学は少子化で経営難に陥っている。公私どちらの子も支援するような施策を検討していただきたい。また、ICTは機器を揃えるほかに指導者が必要。英語教育も、先生の能力を高めることが必要である。何をするにも予算が必要となり大変であるが、盛り込んでいただきたい。 |
| 取組39  （P.50） | 群馬県には、美術館や博物館などが多くあり、財産だと思っているが、点在しているため行きにくいと感じる。高齢者の中には、丸１日時間が取れる人も多いかと思うので、そういった施設を巡るバスなどがあると良い。 |